

2 地域特性を活かした野菜産地づくり

1 アスパラガスの生産力強化

■背景とねらい

管内の一部地域ではアスパラガスの出荷量が年々減少傾向にあり、生産者の減少、既存生産ほ場の低単収対応等を課題となっている。

そこで、本年は地域を絞って低単収の要因と想定される土壌環境（圃場の排水性）の実態の把握を行った。また、品種の検討も開始した。

■本年度の取組と成果

長野市南部地域の8ほ場（既存生産・新規）を調査した結果、排水性が低単収要因の一つとして考えられた。ただし、定植後の堆肥投入等の継続した土づくりを行う生産者に収量向上がみられる事例もあった。（表1）

表1 簡易法によるアスパラガスほ場の透水性(2021年)

場所	土性	地点	10分後	30分後	差(cm)	ほ場内 平均 (cm)	判定
			減水深 (cm)	減水深 (cm)			
長野市真島	砂壤土	1	12	16	4	4.9	○
		2	8.5	14.3	5.8		
長野市松代	砂壤土	1	11	18	7	10.7	○
		2	20.6	35	14.4		
長野市 川中島A	細粒質普通 褐色低地土	1	6	14	8	5	△
		2	4	6	2		
長野市 川中島B	細粒質普通 褐色低地土	1	18	28	10	7.4	○
		2	10.3	15	4.7		
長野市更府	中粗粒質普 通褐色森林	1	3	8	5	3.9	△
		2	9.5	12.3	2.8		
長野市 篠ノ井A	細粒質普通 褐色低地土	1	9	11.6	2.6	3.1	×
		2	4.9	8.4	3.5		
長野市 篠ノ井B	細粒質普通 褐色低地土	1	4.9	8.1	3.2	7.4	○
		2	9.4	21	11.6		
長野市若穂		1	8	11	3	4.5	○
		2	6.8	12.8	6		

※1 土壌群は独法)農研機構 日本土壌イベントリー ホームページを参照

※2 土性については表面土壌による速観

※3 他農業農村支援センターで実施した基準を参照2以下: ×不良、2-4: △やや不良、4以上: ○良

また、品種検討については、本年5～6月に施設栽培（改植・新植）2ほ場にセル育苗株を定植し、定植1年目の生育を調査した。

結果はJA野菜部会会議での情報提供、関係者で情報共有を図り、現地でのほ場改善につなげていく。

■今後の課題と対応

低単収の要因について、土壌環境(排水性)以外の要因の影響を把握するとともに、排水性改善については現地への情報提供を行っていく。

2 果菜類の生産力向上

(ピーマンの生産安定)

■背景とねらい

少面積でも収益性の高い品目として中山間部振興品目として位置付けられているが、高齢化、

収穫調整作業量による栽培面積が制限されるなど、生産者数の減少が懸念されている。また、JAで本年度に共同選果調整設備の導入も予定されていた。そこで、かん水、生育初期の温度確保、施設化、品種等について検討、支援を行った。

■本年度の取組と成果

JA及びJA全農長野と連携し試験ほをJA子会社のほ場に設置し、かん水、生育初期の被覆による温度確保や施設の有利性、品種の検討を行った。また、試験ほを活用してJA技術員を含めて、栽培管理の講習及び定植作業、仕立て方の実習(2回)を行い、技術向上を図った(写真)。

施設化及び生育初期の被覆の有無については、生育促進の有効性がみられた(図1、2)。また、品種は4品種について検討を行い、次年度は1品種を現地での検証を行う計画となった。

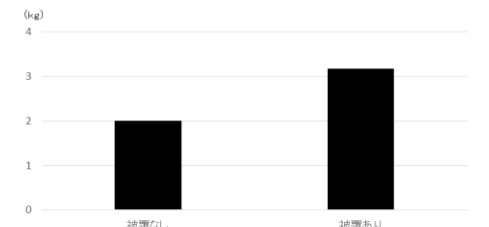
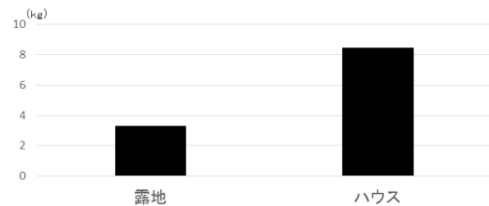


写真 栽培講習会

■今後の課題と対応

品種等の検証を進めるとともに、技術課題の解決を図るため、次年度、重点課題に位置付けて活動する。(技術経営係 小林)